

埼玉大学教養学部同窓会だより

けやき会

第10号

けやき会の皆様へ

けやき会会長 榎木 誠

(70年卒中国文化)

けやき会の皆様、元気に活躍のことと思います。けやき会が創立20周年を迎えた2011年は、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故という未曾有の大災害に見舞われました。

教養学部は、埼玉大学の中でもとりわけ東北地方や茨城県など北関東地方出身の学生が多いため、大学が取り組む被災学生への支援にいち早く協力をしました。大震災と原発事故の影響は、行政の対応の遅れもあり多くの人々に暗い影を落としています。けやき会では、被災された現役生や同窓生の方々への支援を強めていきたいと思っています。

今回の出来事は、私たちに人と人との固い結びつき、ネットワークの大切さを改めて教えてくれました。青春時代、明日への希望を夢に抱き、同じキャンパスで学んだ同窓生が集うけやき会は、身近なネットワークの一つです。国立大学予算が年々削減されるなど、大学と学部を取り巻く環境が厳しさを増す中で“大人の仲間入り”をしたけやき会も、6000人を超える同窓生と約800人の在学生の絆を結ぶ組織として、さらに着実な歩みを遂げていきたいと思っています。

着実に広がる専攻別や学年別など広範な同窓生同士の交流の輪を有機的に結合する組織として、多面的な活動を一層活発化させていきたいと考えています。

けやき会の皆様の一層のご活躍をお祈りするとともに、会の活動への一段のご協力をよろしくごお願い申し上げます。



グローバル人材を

育てる



教養学部長 高木英至

この数年間に教養学部にはいろんな展開がありました。明るい予兆の1つとされていることが、海外の大学(主に協定校)に1年間ほど留学し、留学先で単位を修得して帰って来る学生が増えたことです。以前は、そのような学生は年間に1名かゼロでした。しかし最近、留学する学生の数が急に伸びてきました。

最近では留学する学生数が30名程度にまで増えています。日本全体で「内向き志向」が叫ばれている中、教養学部では逆に留学熱が高まっているのです。

留学する学生の増加は、昨年度から実施している教養学部の新しいカリキュラムの作り方と並行しているともいえます。教養学部のカリキュラムは、いくつかの点でグローバル志向を強めています。まず、英語とともに第2外国語を必修化しました。また、複数の文化が共存する状況を学ぶこ

とを趣旨とする多文化理解科目を揃え、その単位修得を必修化しました。教育コンテンツを国際標準のもとに見直す事業も開始しています。留学して得た単位を卒業単位に組み込みやすくする規程の改訂も行い、さらに、海外インターンシップを単位化し、実際にワシントンDCに学生を送り出す実績も積んでいます。教養学部はもとより、国際性豊かな先生方と教育内容に支えられてきた学部ですが、カリキュラム上もグローバル対応に道を拓いてきたといえます。この間、教養学部にはグローバル・ガバナンス専修課程が設置されるとともに、多様な分野で外国籍の先生の数が増えました。

私は最近、留学を経験した学生の意見を学部ホームページにビデオとして載せるために、留学から戻ってきた在学生へのインタビューを行いました。このインタビューを経て、単なる語学留学ではなく、ちゃんと単位をとる形で留学することには、大きな意義があることを確信するようになった。留学すれば結果として語学力が上がるこ

は当然ですが、彼らにとつての意義はそんなことには限定できません。人間としての成長を目の当りにする感覚があります。多様な社会と文化に触れることで彼らの見識と見聞ははるかに高まっており、困難に挑戦したことに基づく自信や積極性が育まれていることがよく分かります。大学にとっては、現状の教育システムが生ぬるいところを照らし出すことで、留学する学生の増大が様々な改善の契機になるであろうことは容易に想像できます。

今、日本の社会全体で「グローバル人材の育成」が叫ばれています。ここでグローバル人材というのは、グローバルに活躍する一握りのエリートだけを指している訳ではありません。日本人の多くがグローバルに活躍する素地を持つことが重要なのだと思います。交易国家として成り立つ日本にとり、グローバル人材をより多く育てることは国家的使命といえます。埼玉大学、特に教養学部は、この使命を果たして行くことに今後の努力を傾けることになるだろう、と考えています。

2012年度教養学部入学案内のデータより抜粋

2011年度入学者選抜実施状況(10年度)										出身校の地方別入学者数			
定員	日程	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数					2009年度	2010年度	2011年度
160	前期	125	376(497)	362(465)	169(162)	160(163)				北海道	3	2	5
	後期	35	400(437)	400(437)	44(86)	帰国子女5				東北	32	45	34
2010年度業種別進路先(09年度) (上段は全体、下欄は女子)													
製造	運輸 通信	飲食 小売	金融 保険	不動産	サービス	教育	公務	他	大学院				
22(11)	14(20)	8(17)	19(31)	1(4)	26(18)	13(4)	23(17)	4(0)	12(10)	関東	102	76	85
16	5	5	14	1	15	10	17	3		(うち埼玉)	(41)	(27)	(39)
										中部・近畿	17	21	25
										中国・四国	4	5	4
										九州・沖縄	10	9	7
										外国・検定	8	5	10

転退職される

先生から

佐々木照央先生

(ロシア文学)



埼玉大酔夢譚

埼玉大学教養部にロシア語教員として採用されてから35年たちました。担当は最初ロシア文学とロシア語でした。埼玉大学を日本におけるロシア研究の拠点にしようという大望を抱いて赴任してきたので、最初の10年間の学生たちには過度の期待をかけ、1年で文法を習得させ、2年目からは歴史書、文学書をロシア語で読ませる、という特訓をしました。そのために、夏休みには合宿して上級生に下級生を指導させていきました。学生のロシア語力は他大学をしのぐ水準に達していました。学生は教養学部、経済学部、教育学部、理学部、工学部と多岐にわたり、とても優秀で、その中から少なからずの研究者や専門家、商社員、外交官が生まれました。特に合宿

は効果が大きかったと思います。

しかし、ロシア語が大学院の入試語学から外れ、また不十分な日ロ関係のゆえにロシア関係の市場が狭まっていくとともに、ロシア語を受講する学生たちも減少していききました。残念ながらロシア語を含めた第2外国語の位置づけが埼玉大学では低くなってしまう。学生たちは能力はありながら、語学にそれを向けなくなりました。

私はロシア思想史を専門としてきましたが、語学力を軽んじる研究者に出会ったことがあります。文学や社会科学はしっかりした外国語の力をもっていないと専門家にはなれないのです。幸いにも、教養学部に安達忠夫さんがおられ、私たちはお互いの授業に出席合っ、私は氏の幅広い語学力と深い思索に感銘を受けるとともに、文学研究の基礎まで教えてもらいました。氏と対話しながら築き上げた文学論は、一九九〇年以降私がロシア文学の国際会議においてロシア語で発表し続けて諸外国の学者

たちから高い評価を受けることとなりました。

二〇〇五年からは、学生たちに語学の楽しみを味わってもらいたいという思いで、安達さんと2人でエスペラントを教えました。その結果五〇〇人以上もの多くの学生が語学に目覚めてくれました。埼玉大学で私は真の友、良き学生にめぐり会えました。ここには求めさえすれば優れた環境があり、同志がいるのです。

深澤建次先生

(社会学)



ふれあいのある大学が

1969年教養学部を卒業した私が、母校に奉職したのはそれから19年後の88年です。大久保キャンパスは北浦和キャンパスとは別世界でした。歩くときしみし音がした木造校舎は5階建に、戦場的なタテ看で溢れていた学内は平穩そのものに変わっていました。でも赴任して10年くらいは、昔の名残がありました。自由闊達さが学生間ばかりでなく、教員間にも残っていたからです。最初

に出会ったWT君は、私の部屋に勝手に入り込んで、私の机を当たり前のように占拠して本を読んでいた。帰途が同方向だった車通学のYN君には、当然の権利として、私は便乗を要求しました。受講者と昼食をともにするのも珍しくなかったし、よく飲みました。私の部屋の前は学生の溜まり場で距離が近かったのでしょう。そんな雰囲気埋没した私は、理想的な授業とは、10分遅れて10分前に終わるものだと思っています。ある日の授業終了ひとりの男子学生が目釣りを上げて教壇に向かって来ました。毎度、当たり前のように10分も遅れてくるのは何事だ、いやしくもこれは大学の講義ではないか！

一言も反論もできない私は、その後、定時前に教室へ入るよう心掛けました。それでも「教員は時間通りに授業を開始しました？」という、学生の授業評価で満点を貰ったことはありません。終了時刻をししばし延長したからです。90年代後半以降、学内の雰囲気も変わりました。



2011年度卒論発表会

タバコはむろん酒を飲まない学生は増え、語り合う気風も少なくなりました。ゼミの発言者は限られ、終わると直ちに携帯のメールをチェックして退出する学生が目につくようになりました。学部棟の施設はコンピュータで管理され、たまり場の管理も厳しくなりました。監視／新自由主義／個人化が、大学にも浸透してきたのです。学内での飲酒を禁止する学長通達が出され、生協には監視カメラが設置されました。打ち上げも学内では難しくなり全員参加もなくなりました。教員も毎年「活動報告書」の提出を義務付けられ、業績に加えて、修／卒論指導学生が何人いるのかまで査定されるようになりました。時代の流れでしょうか。

同窓生から

剣道は即人生

町田 純(65年入学)

剣道との出会い 私が剣道に出会ったのは埼玉大入学後だから47年も前になる。勝海舟、坂本竜馬、桂小五郎や山岡鉄舟等はみな剣道道場の塾頭クラスだったので、剣道に何か惹かれるものがあり入部した。大学紛争封鎖時に志藤先生(当時教養部教授・一般体育)と2人だけの稽古が始まった。もつと上を究めたくなり、「先生に1本打ってから卒業したい」と思ったが、結局満期の8年になっても打てなかった。在学中は公式戦の選手になれなかった。それ故、昭和60年(蔵高校教諭の時)に6段合格し、関東学生剣道大会に審判デビューした時には、「憧れの日本武道館に立っている」ということで、いたく感動した。

近況 5年前に県立高校を定年退職、現在は浦和高に週2回非常勤(英語)でお世話になっている。蔵

市塚越に在住し、近くの小学校体育館で活動する「塚越剣友会」から妻と共に指導を頼まれて30年になる。保育園年長組から70歳まで61名の会員がいる。私がか会長、小学校教員の妻が幹事長を務めている。妻(剣道6段)も埼玉大剣道部の出身だ。

青少年と共に 剣友会では挨拶と返事と行動が身に着くように教え、毎年埼玉大の寒稽古に参加している。近隣の保育園と中学校、さらに浦和西高で剣道を指導している。目を輝かせて一心不乱に面打ちをする子供たちに、教育の原点を教えられている。

生涯剣道を目指して 他の高齢者同様私も稽古に励み8段に挑戦している。私の今年度の剣友会での稽古回数は2月19日現在284回だ。朝練(現在は週5回)は25年続いている。また、60歳を過ぎてから面を打つスピードが速くなった。今年の埼玉大の寒稽古を見学していた知人に「先生の振りのスピードは学生よりも速いです。」と言われた。これは、カイロプラクティクスを学び、関節や筋

を柔らかくして瞬時の動作に使えるようにしたお陰だ。世阿弥の「花鏡」にある「老後の初心忘るべからず」の言葉どおり、「一生稽古で貫き通す」ことが理想だ。加

齢とともに「体力より気力」と言われるが、氣と氣がぶつかった時、「相手が先に打ってきたても相手に乗って勝てる」という自信を持つまでにしたい。イチロー選手の言葉「手は最後に動く」に納得。毎回の稽古が工夫を生み私の剣道は進化し続けている。恩師の志藤先生の域を超えるぞと言ったら、4年前に退官された塩入名誉教授(平成18年埼玉大女子が全国制覇を遂げた時の監督)に「お前はいつも不遜だ」と言われてしまった。

地域・他国との交流について 蔵市や塚越地区の行事には役員・スタッフ・演技者となり、全会員で協力している。また、韓国インチョンの尋剣会という剣道クラブと毎年交互に行き来して10年になる。剣道がなかったら今の私はない。埼玉大がなかったら私の剣道はない。その全ては教養学部初年度入試受験番号111番から始まった。



写真キャプション

塚越剣友会と駒場剣友会との交流会

蒼玄寮の思い出



寺内慎一(69年卒)

入寮の事務手続きを終え、部屋に戻って来ると、母が持たせてくれた風呂敷包みが勝手に開けられている。母手作りの食物を先ほど挨拶を交わしたばかりの同部屋の先輩達(4人部屋である)が、むしゃむしゃと食べているではないか。勿論私に断りなどしていない。しかも平然と「なかなか美味いね」などと言うので



ある。大変なところに来てしまった・・・これが私の寮生活の始まりであった。

寮内において、食物に関しては原始共産制が敷かれていた。部屋の中に遮蔽物一切なしでプライバシー皆無である。しかも電力は一人コンセント1つ、電気スタンドあるいはコタツだけが頼りであった。戦前からの老朽化した建物のため火気一切禁止である。夏の扇風機勿論駄目、団扇のみ、自然に逆らうことは無し。

半年もすると馴染んでしまったのも情けない。数々のマイナス要因も一気に払拭するのが「安い・近い」だ。当時物価が安かったとはいえ、1カ月の家賃が500円(多分)で食費は朝・昼・晩3食で3900円! 味は兎も角として、量に関しては取りあえずの要求に答えてくれた。北浦和駅前のキャンパスのすぐ裏手に立地し、アルバイトに出か

けるに大変都合が良かった。肝腎の通学至便という認識を寮生はほとんど持っていなかったようである。

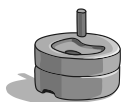
上級生になると我々の部屋はマージャン部屋になってしまった。金が無い同士の蹴り合いである、特に期末試験が近づくとき通常訪れないような連中が「勉強教えてやる」などと言いがらマージャンを誘いに来るのである。現在民博館長の須藤健一氏など日頃の研究の息抜きに、普段はアルバイトで部屋を留守にしている連中が試験勉強で在室している時を狙って来るのだ。我々は一夜漬で乗り切ろうとしているのに! ギリギリの勉強が阻止されてしまうのである。私は超低空飛行であるが何とか4年間で卒業できたが、同部屋の準硬式野球部の副将(私は主将であった)は落第癖がついてしまい7年間も在籍することになってしまった。

寮の住人もユニークな人が多かった。40歳を超え頭も薄くなり、何時もふんどし姿で徘徊し、空手の名人で自動車に穴を空けたおじさん。月夜の晩に酔って中庭に現れ、大声で演説を

する迷惑男。公安事件で警察に追われているので完全自治の寮に隠れ住んでいると自称しているお尋ね者。アルバイトを掛け持ちして金を稼ぎ実家に送金している孝行息子など多士済々であった。寮生達に共通していたのは暇は有るが金が無いということであった。

4年間の寮生活は学業に励むとなると甚だ不適切な場所であったが、社会人に離陸する前の私を随分と逞しくしてくれた事だけは確かだった。酒に酔うと2階の窓から小便するのが普通であったため、会社員になつて最初の社員旅行で酔った勢いとはいえ、2階から小用をしてしまい「ションチャン」などと不名誉な仇名を頂戴してしまった事など今となつては楽しい思い出である。

学芸員の仕事



18年間を振り返って

駒木敦子(94院年卒)

平成6年、大学院文化科学研究科を修了した私は埼玉県富士見市の学芸員として採用されました。専攻していた文化人類学的調査の

イロハに倣い、研究対象とする文化を深く知るため、市内のアパートに移り、念願の学芸員ライフを開始しました。

仕事その一

資料の収集・整理・保管

入職直後に配属されたのは市立考古館でした。名前の通り、展示室には考古資料しかありません。富士見市は発掘調査が盛んで、ほとんどの学芸員が考古学専門という中で、私が初の民俗学専門の学芸員として雇われたのですが、1973年の開館以来、民俗資料も収集しており、すでに数千点の民具(有形民俗資料)が整理・保管されていきました。専門分野が違っても、学芸員という辞令がなくとも、何人もの先輩職員がかつての生活文化を物語る資料をしっかりと残していたことは、とてもすごいと思いました。

考古館はとても小さな施設でしたので、収蔵庫は考古資料でいっぱいです。唐箕(とうみ)や田舟などの農具、大八車や張り板など、かさばる物も多い民具を保管するため、小学校3校から5部屋の余裕教室を借り

ていました。この「間借り収蔵庫」は校舎の大規模改修や耐震工事などのたびに移転を求められ、旧教職員住宅や旧給食センターに移ったこともあります。10回以上経験した引っ越し作業では、職員総出では足りず、遺跡発掘のパートさんにまで応援していただいたこともありました。(現在は、専用収蔵庫2カ所と小学校2教室に保管しています)

民具の引っ越しは頻繁ではありませんが、資料寄贈の申込みは毎月2〜3件ほどあります。農家から資料を運搬し、水洗い、注記、計測、資料カード作成の後、収蔵庫に運びます。学芸員とは「ホコリだらけの作業着姿」で「体力勝負」なのです。

仕事その二

資料の展示・活用

2000年、考古館は2つの資料館として生まれ変わりました。考古分野を担当する市立水子貝塚資料館と歴史・民俗分野を担当する市立難波田城(なんばたじょう)資料館です。どちらも広大な歴史公園の中にあり(水子貝塚公園・難波田城公園)、野外博物館的な



運営を行っています。

私は、ここで初めて本格的な展示を手掛けることができました。それ以前は小学校郷土資料室でたまに小さな展示を行うくらいでしたが、難波田城資料館では常設展示「富士見のなりわい」の他、穀蔵（こくぐら）テーマ展示（毎年展示替え）、企画展（年2回）、移築復元古民家での季節展示（年5回程度）を担当することになりました。企画展と穀蔵テーマ展示は、私を含めた3人の学芸員（嘱託職員含む）が交替で担当します。

私はこれまでに、穀蔵テーマ展示では「竹かごの道具と職人」「石屋の道具と技」「下駄職人の道具と技」「和菓子職人の道具」「押し

絵羽子板―道具と作品―」「木挽きの道具」を、企画展では「くらしと水」「ちよつと昔の着物語（きものがたり）―のら着・よそゆき・ちよいちよい着―」「むらまもる消防」「わら縄のチカラ」「草屋根の年中行事」「富士見のみそ・しやうゆ」を担当しました。

こうした展示会には苦しみと楽しみが伴います。苦しみとは、期限内に資料を選定し、写真を撮影、解説パネルや展示図録の文章を書き上げ、展示を完成させること。資料借用・写真掲載許可や印刷契約などの事務広報も担当者の仕事です。

展示会以外にも、小学校の団体見学（民具を活用した体験学習を伴う）や市民大学への出前講座などもあります。窓口には過去の図録やパンフレットを買い求めるお客さんも来ます。締切間際にはパニックになりそうです。

一方、楽しみとは、未知の歴史や文化、人と出会えることです。当初は予想していなかった内容になることもあり、混沌から形造るおもしろさがあります。観覧したお客さんから「勉強

になった」「おもしろかった」などという感想をいただける、さらに嬉しくなります。

今、私は3月10日から始まる企画展「世界一の砲丸職人―辻谷政久氏のものづくり―」（8月19日まで）の準備真っ只中です。アトラントオリピックから3大会連続で男子砲丸投げの金・銀・銅メダルを独占した「飛ぶ砲丸」を作り、79才の今なお現役の職人に迫りました。準備を始めた2年前、文系の私には砲丸を削る汎用旋盤、チャック、バイトという用具名も初耳でした。工作機械の入門書を買ひ、何度もお話を伺わせていただき、ようやく自分なりのゴールが見えてきました。多数の人間の共通体験といえる「富士見市の民俗」とは少し路線が異なりますが、「市内にこんなにすごい人がいる」ことを伝え、多くの人に元氣を与えられれば、学芸員冥利に尽きます。

富士見市立難波田城資料館
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1
tel.049-253-4664
fax.049-253-4665

写真キャプション
小学生が「昔のくらし」の学習にきました
（ボランティア「市民学芸員」の小森和雄氏撮影）

現役生から

被災地いわき市から

大平葉美（2年）

私の地元は福島県のいわき市です。浜通りに位置する私の地元は、福島とは言っても冬に雪はほとんど降らず、また夏には海からの風が涼しく、1年を通してとても快適なところなんです。田舎ではありますが住みやすく、大学進学で地元を離れたとき、同級生は皆口癖のように「いわきに帰りたいなあ。」と言っていました。そんな愛すべき地元が、「被災地」と呼ばれてしまう日が来るとは思ってもいませんでした。

2011年3月11日、私達のいわき市はまさに「混乱」の中にあつたようです。一言で「いわき市」と言っても、全国で2番目の広さを誇る市ですので、

震度や被害状況も場所によって異なり、どこで何が起きているのかが分からなかったといえます。海沿いの街は津波に襲われ、内陸の山に面した僻地では家屋の倒壊が相次いでいるらしいなど、漠然とした情報によって人々はより一層恐怖を募らせていました。また、これまで災害に見舞われるようなことは全くなかった地域ですので、どこに避難するかの把握や非常事態に備えた家庭での備蓄などはほとんど行われていませんでした。そんな「生まれて初めての状況」に地元の人々は戸惑いが大きかったのですが、それでも国の力を信じていました。日本のような国家制度の整った国ならばすぐに混乱は解消され、元の暮らしに戻れると思っていた。

しかし、それを阻んだのが福島原発の問題でした。大々的に報道された放射能の危険性によっていわきには支援物資が届けられず、報道機関も来ないため、いわきが今どんな状況かが伝えられることもなく、混乱を抱えたまま孤立してしまつたのでした。

現実を知った私は、埼玉から何とか実家に物質を送ろうとしましたが、安全な配達ルートが確認できないうちは運送会社もいわきへの配達を受付けてはくれず、私は地元のために何をすることもできませんでした。



そんな事態の中でいわきの人達がどのように生きていたかといえ、彼らはSNSサイト（インターネット上の社会的ネットサービス）のmixi（ミクシイ）やTwitter（ツイッター）を活用していました。見ず知らずの人の、「〇〇公民館でおにぎりを配っています」「〇〇に水の配給車が来ていますよ。」などの書き込みによって情報を共有していたそうです。また、情報から取り残されがちな高齢者には、近所の人たちが善意で物資を提供したり、声を掛け合ったりしていたようです。周囲から取り残されてしまったいわきでは、地元の人たちが協力し合って生活をつないでいたのです。

被災者たち自身の力だったと私は思います。地元を愛し、これからもいわきで生活していこうといういわき市民の力強さを感じました。

こう書いてしまうと、いわきは地元の人々だけで復興してきたようになりませんが、もちろん他県の人達の暖かさを感じることもありました。テレビでは「差別」に関する報道が声高に叫ばれましたが、差別をする人はいれば、心からの心配と支援をしてくれる人もたくさんいたのが現実です。私の姉はニット帽とマスクと大きな荷物を持ち、いかにも「被災者」という出で立ちで埼玉の私の家に避難してきましたが、途中で「大丈夫ですか？」と声を掛けて下さる人がたくさんいたそうです。

人たちに共感もします。差別されることは悲しいです。し憤りを感じますが、身の回りに危険が及ばないようにしたいと思う気持ちを非難することはできません。行政のトップに立つ人たちは、こういった国民の心情も受け入れて対策を取ってほしいと思います。

震災の混乱が収まらないままで首相が変わったときに被災者が感じた国への不信任は、いまだ消えていません。自分達が不安定な状況にいるときに、国の政治まで不安定になっっているのを頼りにしていいかわかりません。日本という国が混乱から抜け出すには、国民が落ち着くということよりもまず政治の安定が先決だと感じます。最近では東海地震の予測が発表され、人々は些細なことでも東海地震の前兆と考えてしまい、不安は募るばかりだと思えます。国家の中心となる関東地方が被災地となれば、東日本大震災以上の混乱が起きることでしょう。その時に備え、不測の事態にも柔軟に対応できるように、政治の中核をしっかりと固定しておく必要があると私は考えます。

「何も知らないただの学生が何を偉そうに」と思われるかもしれませんが、以上の夏、毎年恒例の小名浜の花火大会は開催されましたが、震災後も変わらず行われた恒例行事に復興の兆しを感じる半面、「ドン」という地面を揺るがす花火の音に、地震を思い出して身構えてしまう人も多かったそうです。被災地は今も不安を拭えないままです。このままではいけないと思うのは、きっと私だけではないと思います。



旅サークルを満喫

山本佳奈子（2年）

私は茨城県出身の大学2年生です。今は実家を離れ一人暮らしをしています。私がなぜ埼玉大学に入学したかという、実家からの距離もほどよく、全国でも珍しい「教養学部」という学部で勉強してみたかったです。

横浜中華街での食事



実際入学した時は素朴な感じの学校だなと思いました。建物や学生を見ても気取った感じがしなかったことを覚えています。最初に落ち着いた印象を受けたので入学した時にあまり不安を感じることはありませんでした。キャンパスは初めてだったので授業をする教室がわからなくて困っていたことはあります。その時同じように道に迷っていた女の子と友達になれました。入学時の印象としてもう1つ頭に残っているのは学食です。第1食堂と第2食堂があり、学食は初めてだった私は、日によって第1食堂に行ったり第2食堂に行ったりと2つの学食を楽しんでいました。特に第1食堂にはお惣菜やソフトク

ルームなども売っていて毎
 日悩んでいました。今では
 第2食堂にできた焼きたて
 パンがお気に入りです。各
 食堂の近くにあるコンビニ
 も食堂には無いものを売っ
 ていて時々利用しています。
 学校での生活は、授業と
 サークル活動が中心です。
 私は旅サークルに入ってい
 てロプーという名前です。
 サークル活動としてドライ
 ブに行ったり、泊まりがけ
 で沖縄や北海道にも行っ
 たりしたことがあります。基
 本的にサークルは自由度が
 高いので私のサークルもと
 てもアットホームで友達と
 の旅を楽しんでいます。
 ドライブでは先日八景島
 のシーパラダイスと中華街
 に行ってきました。学部で
 仲良くなる友達もいますが、
 サークルや部活で知り合っ
 た人たちとも仲良くなって、
 休日も遊んだりする人が多
 いです。サークルも部活も
 沢山あるので、サークルを
 掛け持ちして新しいことに
 チャレンジしたいです。毎
 日学校やバイトがあつたり
 就職活動のことを考えたり
 遊んだりと盛りだくさんな
 生活を送っています。元氣
 で楽しい大学生活です。

吹奏楽部の活動

駒場佐和子（2年）

私は栃木県の出身で、入
 学時から大学近辺に下宿し
 ています。地元の大学では
 なく埼玉大学を選んだのは、
 当時絞りきれずにいた学び
 たい分野の専修がすべてあ
 る教養学部が、とても魅力
 的であつたためです。入学
 後の大学の印象は、新しい
 生活に慣れることに必死で
 あまり覚えていませんが、
 学生が落ち着いている雰囲気
 で、緑も多く、いいところ
 だな、と感じたと記憶し
 ています。

現在、私は経済学部の研
 究資料室でアルバイトをさ
 せていただきながら、吹奏
 楽部にも所属し毎日充実し



定期演奏会

た生活を送っています。学
 業だけではなく何か他のこ
 ともして大学生活を充実さ
 せたいと思い、サークルに
 入ることは決めていたので
 すが、一番興味があつた吹
 奏楽の団体でサークルはな
 く部活しかないということ
 で、学業や一人暮らしと両
 立できるのだろうか、と当
 初は入部することを躊躇い
 ましたが、小・中・高と楽
 器をやってきたおり楽器を
 吹くことがもう生活の一部
 となつてしまつていて、そ
 してなにより、これまで吹
 奏楽をやってきた得たもの
 が自分にとってとても大き
 いものだったので、入部を
 しました。

埼玉大学吹奏楽部は現在、
 他大学の学生も含め約10
 0名という大所帯で、メイ
 ンとなる年2回の定期演奏
 会のほか、吹奏楽コンク
 ルやアンサンブルコンテス
 ト、埼玉県内の大学による
 ジョイントコンサートへの
 参加、幼稚園からの依頼演
 奏など様々な活動をしてお
 り、それらに向けて日々練
 習に励んでいます。大人数
 ではありますが、学年関係
 なくみんな仲が良いです。
 練習日が週3回というこ

ともあり、やはり学業や一
 人暮らしとの両立に悩むこ
 ともありますが、予定をし
 っかり立て、またそれをこ
 なすことができるようにな
 りましたし、場面に応じて
 気持ちの切り替えもできる
 ようになりました。

私が吹奏楽部の活動を続
 けているのは、このように
 自分が成長でき、また多く
 の良い仲間とめぐり会うこ
 とができるからだと思いま
 す。これまで吹奏楽を一緒
 にやってきた仲間は私にと
 つてかけがえのない存在で
 す。吹奏楽をやることがで
 きるのは大学生で最後だ
 と思うので、引退するまでの
 残り少ない時間を大切にし
 ていきたいと思っています。

あらかると

文化人類学界で

埼玉大学出身が大活躍

埼玉大学の文化人類学研
 究室が1970年開設され
 て42年経ちますが、今や
 埼玉大学文化人類学コース
 の先輩たちが大活躍をして
 います。1期生の須藤健一

氏が国立民族博物館館長に
 就任しており、2期生の小
 松和彦氏が次期国際日本文
 化センターの所長に決まり
 ました。また1期生の渡邊
 欣雄氏が文化人類学会の会
 長というように、文化人類
 学界のトップを占めていま
 す。さらに全国の多くの大
 学に就任しています。

埼玉大学教養学部の先 生や同窓生の本の紹介

①『トマト大学太平記』

奥本大三郎埼玉大学名誉教
 授著・幻戯書房2310円

埼玉大在職中の事をブラッ
 ュユーモアたっぷりに紹介

②『ロシア文化の方舟』

野中進埼玉大学准教授編・
 東洋書店3360円

現在のロシア文化全般を分
 かりやすく紹介

③『運とツキの法則』

林野 宏著・埼玉大文理65
 年卒クレディセゾン社長。

致知出版社1400円＋税
 トップビジネスマンを目指
 す人へ

④『事典・イギリスの橋』

三谷康之著・埼玉大教養69
 年卒東洋学園大学教授日外
 アソシエーツ6600円＋税
 イギリスの橋に関する文化

ミニ同窓会補助金申請書		
会の名称		
代表者	氏 名	
	卒 年	
	郵便番号	
	住 所	
	電話番号	
	Eメールアドレス	
実施日	年 月 日 (曜日)	
場 所		
人 数		
振込先		
会の様子	(写真など)	

- 2012年度
けやき会総会のお知らせ
1. 期日 6月30日(土)
 2. 日程
 - 1時 理事会
 - 2時 講演・滝澤三郎氏
 - 3時 総会
 3. 場所 懇親会(総会終了後)
埼玉大学会館
 4. 懇親会費5000円

滝澤三郎氏の紹介

72年埼玉大学教養学部卒。法務省を経てカルフォルニア大学留学。のち国連難民高等弁務官事務所駐日代表など4つの国際機関で活躍。現在東洋英和女学院大学教授。

2012年度から新学部長に伊藤博明教授(思想史・芸術論)が就任される予定です



ミニ同窓会に補助金を

また2010年度よりミニ同窓会(10名程度)に、けやき会より1万円補助することになっています。同期会や同じ研究室の同窓生での集まりを持っています。同窓会や同じ研究室の同窓生での集まりを持っています。同窓会や同じ研究室の同窓生での集まりを持っています。

2010年度決算報告

左記の決算報告の表をご覧ください。収入はほとんど、新入学生のけやき会加入費と卒業生の加入費と寄付です。繰越金は次の名簿製作費に充てられています。支出は同窓会会員に配布している会報製作費や配布作業費がほとんどです。次にホームページ関連費です。他学部の同窓会連合会との加盟費が続きます。学部研究教育支援費は昨年度卒業式が中止になり次年度へ繰り越しになりました。今回は東日本大震災被災地の学生支援のため大学本部へ10万円寄付しました。

事務局から

①けやき会の役員募集

けやき会では会計、会報編集、総会、庶務などの事務をする人を募集しています。定年で自由な時間ができた人、家庭で時間に余裕ができた人など、さいたま市に集まるのは2カ月1回程度で、あとは家でもできるボランティアの仕事です。

②ホームページに載せたい同窓生の情報求む。

・著書・活動・就任・表彰

info@keyakikai.net

2010年度 埼玉大学けやき会決算報告

(2010年4月1日～2011年3月31日)

単位:円

収入

繰越金	2,542,675
会費・寄付(郵便振替)	1,750,300
現金寄付	30,000
(懇親会2次会余り)	6,810
雑収入(利子)	255
懇親会費	175,000
計	4,505,040

支出

ホームページ管理費	252,420
会報費	122,516
同窓会連合会会費	148,000
総会費	613,576
懇親会費	117,000
名簿送料	10,480
会議費	21,304
事務費	27,873
同期会専攻別同窓会援助費	10,000
学部研究教育支援	0
埼玉大学被災学生救援費	100,000
計	1,423,169

残高

郵便振替口座	3,081,871
埼玉りそな銀行	2,168,567
郵便貯金	736,170
現金	103,033
	74,101

2010年6月21日

会計担当

会計監査

関根増男

武井 尚

Eメール
info@keyakikai.net



発行者
埼玉大学けやき会
(埼玉大学文理学部
文学科・人文科、
教養学部同窓会)
会長 榎木誠
編集担当 関根増男
事務局
〒358-8570
さいたま市桜区
下大久保 255
埼玉大学教養学部内